



ゆうメール

MAC NEWS

2025年 2月号

日本の子供たちの「国語力」は壊滅的？
学校の教科書も理解できていない！？

～「読解力」の無い人はAIに仕事を奪われます～

日々保護者さんからは様々な悩みや相談をお受けしますが、最近「国語力」に関する悩みが圧倒的に多いと感じます。

会話自体も怪しいものですが、そこそこ成績の良い生徒でも文章題になった瞬間に急に「わからん！！」となる子が多いのです。

今回は大規模な学生の国語力の調査をされた数学者、新井紀子さんの著書から、今の学生たちの『国語力のリアル』をお伝えします。

AIは東大に合格できるか？

「東ロボ君プロジェクト」

新聞記事などでご覧になった方もいるかもしれませんが、2011年「ロボットは東大に入れるか？」と名付けた人工知能プロジェクトが始まりました。そのプロジェクトディレクターを務めていたのが新井紀子氏です。

10年計画だったこのプロジェクト、結果的にはMARCH(明治・青山学院・立教・中央・法政大学)

には合格できるレベルまで到達。しかし残念ながら東京大学の合格圏内に到達することはできないうという判断のもと、2016年にこのプロジェクトは凍結されました。

そのような判断がされたのは、AIは文章を読んで理解する力(=読解力)が無いからです。

AIは文章を読み、理解し、答えを導き出しているのではなく、膨大なデータの中から「答えとして適当でありそうなもの」をはじき出しているだけなのです。

新井氏が覚えた不安

とはいえ東ロボくんはMARCHレベルの大学には受かれるまで成長しました。これは全高校生の上位2割だそうです。

逆に言えば、全高校生の8割は読解力の無いAIよりも劣っているということなのです。

「学生たちが学習から意味を見い出さず、ただ答えを解いていく姿は、

まるで東ロボくんのような。彼らは事実を丸呑みし、理解することなしに、答案の上に吐き出す。」

と新井氏は述べます。つまり、このような暗記重視の表面的な勉強を続けていたら、AIの得意とする領域しか伸ばせない。将来的に失業者となる人間を大量生産している、ということの意味なのです。

日本の中高生の「読解力」はすでに危機的状況！？

新井氏は東ロボ君のプロジェクトを開始したのと同じ2011年に、大学生対象の数学基本調査を行いました。対象は国立・私立の48大学、90クラスの6,000人の学生で、「入試で勉強した数学なんてもう忘れた」と言えない、入学したての大学1回生です。

問題レベルは中学生の定期テストで出てくるような文章問題(ちょうど今MACの中学1・2年生が勉強しているレベル)だったのですが、全体の正答率はなんと34%、理系に

限ってもなんと46.4%で半数にも満たなかったのです。

この結果に関して、新井氏はある推測をします。

「国立大学など高偏差値の大学に入学している子たちも含めて、この正答率なのはおかしい。もしかして、数学の問題が解けていないのではなく、問題文を理解できていないのでは・・・？」

そこで彼女は埼玉県、福島県、北海道などの小・中・高等学校や教育委員会、文科省などの協力のもと2万5000人対象の大規模な基礎的読解力の調査を実施しました。

その結果は・・・驚くべきものだったのです。簡単にまとめると、

- ①中学校を卒業する段階で、約3割が(内容理解を伴わない)表層的な読解もできない
- ②学力中位の高校でも、半数以上が内容理解を要する読解はできない
- ③進学率100%の進学校でも、内容理解を要する読解問題の正答率は50%強程度である

調査後、新井氏は「なんと中学生の約半数は、中学校の教科書が読めていない(理解できていない)のです。」と嘆きます。

また、調査では基礎的読解力がそのまま偏差値と高い相関関係にあることも分かりました。基礎的読解力が高いと偏差値の高い高校

に入れる可能性が高いということです。

そして先述の通り、基礎的読解力があれば将来社会に出たときにAIに仕事を奪われずに済みます。

つまり、基礎的読解力を向上させることが「学歴」でも「社会に出てから」もずっと役立つ汎用性の高い力となるのです。

ご家庭でできる

「読解力アップ」の手助け

AIに仕事を奪われない為には、AIの苦手な分野が得意な人間になれば良いわけです。つまり、人間味があり、読解力があり、様々な状況に応じて臨機応変に対処出来る人です。そうでなければ、AIに職業を奪われてしまう可能性が高くなります。

読解力は一朝一夕で身につくものではありませんが、ご家庭でできることをいくつか挙げてみます。ぜひ家族みんなの協力で読解力アップを目指してください！

① 会話の中で「なぜ？」をたくさん使う

どうしても家族の会話は淡泊になりがちです。子どもの言ってきたことに対して「ダメ」「無理」と一言で否定するのではなく、「なぜそうしたいの？」など、自分の思いを他人に説明させる機会を作ってあげると、論理的に話す力がつきます。

② 親が答えを用意しない

子どもは分からない事があるとすぐ答えを求めます。そこでばつと教えれば楽ですが、それを繰り返すと「何でも人に聞く子」になり、自分で考えることをしなくなります。

答えが分かっていることでもすぐ教えず、一緒に考えてみたり、一緒に調べてあげることが大切です。辞書などで「文字」で視覚的に調べるにより読解力や問題解決能力が身につきます。

③ 様々な年代の人の

会話を聞かせる

親戚の集まりなどに積極的に参加し、大人の会話に参加させてあげると、分からない言葉が出てきても前後から推測しながら内容を理解しようとする力が身につきます。せっかく親戚が集まっても、子ども同士でゲームをしてはもったいないのです。

④ 勉強だけさせない

(実はこれがとても重要です)

文章を読み正しく理解するためには「想像力」「推察する力」が必要となってきます。このような力は自然に触れたり、何かに夢中になったり、休みの日に日常では出来ないことに挑戦したりと、様々な経験を積むことで身につきます。

そのような経験をしている子は、伸びしろが大きく、後伸びすることが多いのです。ぜひ「机の前でする勉強」以外の勉強もたくさんさせてあげてくださいね。(もちろん勉強も頑張った上で・・・です笑)

(新井紀子「AIvs教科書が読めない子供たち」)